



紅　　み　　葉

晩秋の山々は、やがて訪れる冬を前に、色彩豊かな表情で自然を飾り人々の目を楽しませてくれます。

普通、紅葉といえば楓かえでを指すようですが、もともとは草木の葉が霜にあって赤や黄になることで、「もみづる」・「もみいづる」のように動詞としても用いられ、神秘なる木の営みの表現で木の種類を問わず紅葉こうようも黄葉も「もみじ」としています。

最も美しく紅葉こうようするのは、昼夜の温度差が大きく、空気が澄んで紫外線を豊富に受ける山あいの谷間で、せせらぎに映えるまぶしさは人の心を無にするようです。とくに美しい紅葉の代名詞として、下に紅葉をつけて漆紅葉うるしもみじ・銀杏黄葉いちようもみじ・柿紅葉かきもみじ・柏黄葉かしわもみじなどと言われ多くの名歌を残しています。

「見る人もなくて散りぬる奥山の
もみちは夜の錦なりけり」

紀　貫　之